

第3回佐倉市地域福祉計画推進委員会 議事録

開催日時	令和4年3月17日（木） 午前10時00分～12時00分
開催場所	佐倉市役所1号館3階会議室
出席者	石原 茂樹委員、宇田川 光三委員、内川 浩明委員、川根 紀夫委員、郷 有紀委員、小林 眞智子委員、住吉 アキ子委員、深沢 孝志委員
欠席者	西廣 直子委員
事務局	丸島 正彦（福祉部長）、大谷 誠一（社会福祉課長）、下地 正史（社会福祉課管理班長）、菅沼 京子（社会福祉課地域福祉班長）、橋口 庄二（社会福祉課主査補）、村石 祐一（社会福祉課主査補）
議 題	1. 議事 （1）地域福祉フォーラムについて （2）包括的な支援体制の整備について （3）第4次地域福祉計画・第1期推進委員会のまとめについて 2. フリートーク
配布資料	資料1 令和3年度・地域福祉フォーラム・報告 資料1別紙1 第4次佐倉市地域福祉計画 資料1別紙2 とともに歩むふくしプラン4 第6次佐倉市地域福祉活動計画 資料1別紙3 佐倉市の考える地域福祉コーディネーター像 資料1別紙4 佐倉市社会福祉協議会が取り組む地域福祉コーディネーターの役割 資料1別紙5 調布市のCSWのあゆみ 資料2 包括的な支援体制の整備に係る担当者会議について 資料3 第4次地域福祉計画・第1期推進委員会のまとめ 資料4 第4次地域福祉計画 こうほう佐倉掲載記事 資料5 令和3年度市民意識調査結果（報告書の速報版から）
傍聴人	なし

1. 開 会

今回の議事録確認者は、小林会長と深沢委員の2名であることが確認された。

2. 議事

（1）地域福祉フォーラムについて

資料1及び資料1別紙1～5に基づき、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

事務局から地域福祉フォーラムについての説明があった。質問や意見、感想をお願いする。

【委員】

今回のフォーラムでは、いよいよ地域福祉コーディネーターの取組が本格化してきたと感じた一方で、地域福祉コーディネーターの本質がどこにあるのかというところがよく見えなかった。

相談者が「相談に来て良かった」と思える相談場所であるということ、もう1つは、相談したいのにどうしてよいか分からない、あるいは自分がどういった状況なのかよく分からない、そういう人たちを発掘するという大きなテーマがあるはず。しかし、フォーラムは、サービスを提供する側で起きることに終始した感がある。

取組を本格化していくのであれば、やはり、利用する人の目線で、どうしていくのかといったところを整理した方が良かったと思った。

【委員】

スマートフォンでフォーラムを見た。

それまで地域福祉コーディネーターについて、然るべき公的機関につながるための存在と理解していたが、調布市の事例を見て、これは素晴らしいと思った。地域の福祉力を掘り起こし、それを支援につなげている。

例えば、事例の1つとして障害者の送迎支援のことがあった。難しかった送迎ルートの問題について、関係者が集まってまず相談し、それから地域のボランティアたちに呼びかけて、学校の長期休暇の間の支援にまでつなげていた。私の知人にも、今通わせている障害者施設のバスのルートだと、遠いので自分がそこまで送迎しないといけないと話をされる人がいるが、調布市の事例では、関係者が顔を突き合わせ、ルートは変えずに待つ場所を変えたら、それまで自宅から1時間かかっていたのが15分になった。こういうことが実際に起きるのだなど、びっくりした。佐倉市でも、もしかしたらそうしたことができるのかなと思い、深く感動した。

【会長】

地域を掘り起こすということと、利用者目線ということは、とても大事だと思う。地域福祉フォーラムで、調布市社協の方が「課題ではなく人と向き合う」と言われていた。

【委員】

相談を受ける方は、受けている段階で相談者の人柄を自然に理解しようとしているとは思いますが、調布市社協の場合は、職員の「行動の共通認識」とし

て、しっかりと明文化された。そこはやはり大きかったと思う。

【委員】

地域福祉コーディネーターについて、地域福祉フォーラムを見ても、まだ分からない。

フォーラムは3つの動画に分かれており、ストーリー性を期待したが、あまり変化がなかった。先にも話に出たように、利用者目線がなく、何をどうしたいのかが分からなかった。ポリシーがあれば、1つの流れができて、シナリオができると思う。そうすると、見る側としては、順番に「なるほど、なるほど」と思える。

例えば、佐倉市は今、初めの一步をまず踏み出しました。悩みがいっぱいありました。調布市にはこういった成功事例がありました。このように流れていくと、利用者側から見たら、地域福祉コーディネーターというのはこうなっていけば結構役に立つなということが、頭の中に少しは入るかもしれない。

また、生活支援コーディネーターとの住み分けだとか、結局、利用者はどこへ行ったらよいか分からない。総合相談窓口のようなイメージだが、では何をどのように言って良いかが分からない。そうした住み分けについても、例えば最初に、地域福祉コーディネーターが直面した悩みを広げていって、グループでそれぞれ解決をしていって、少しずつ芽生えていく、佐倉市もここからスタートするというのが見えると、頑張ろうとしているなということが、見る側にも伝わると思う。そういった訴え方についての努力が、もう少し欲しかった。

【委員】

地域福祉フォーラムのアンケートに1件だけ回答があったが、恐らく、福祉に関心を持ち、活動もされている方の意見。そういう方が、佐倉市と調布市との地域性の違いに着目されている。

フォーラムでは調布市での手厚い福祉が紹介され、そのように進んでいけば良いなと思って見てはいたが、やはり、佐倉の地域性は調布とは違うと思う。単に調布市の福祉が進んでいるから佐倉もそうしようということではなく、なぜ調布市の福祉を手本にしようと思ったのかとか、原点のところをもう少し深く掘り下げたら、もっと伝わっていくのではないかと思った。

【委員】

地域福祉フォーラムでは、テーマである地域福祉コーディネーターについて、既存のいろいろなコーディネーターとの違いとか、役割とか、それぞれの立場でそのような主張をしたという印象が残った。

【委員】

私は地域福祉フォーラムの当事者だが、ご指摘はごもっともなことばかり。確かに、我々はひたすら訴えようとはしていたが、利用者の目線が欠けていたというのはそのとおりだった。また、これも話のあった、訴えかける姿勢、深い考察、そういう部分が足りなかったとも思っている。

そうってしまった原因としては、地域福祉コーディネーターの設置からフォーラムの収録までに半年しか経っていなかったということがあり、少し時期が早かった感はある。設置ありき、仕組みづくりありきの部分があったのは、やはり反省しなければならないところ。

あとは、見せ方として、2時間かけてこれを見るのかと言われると、返事に窮する。見た方からの感想で、最初から真面目に見ていたが、途中で疲れてしまい、地域福祉コーディネーターの発表のところまで行きつかなかったというものもあった。そういった意味では、訴える姿勢ということも、今後の課題にしていきたい。

【委員】

自分のところでは高齢者のほうの生活支援コーディネーター、地域包括支援センターを運営している。

地域福祉フォーラムについて一言で言うと、既に意見も出ているが、一般市民が見た時に、ポイントというかテーマを伝える手順、原点の訴え方がもう少しあると、もっと良くなったと思う。

ただし、調布市での成功事例は、一般市民が見たら素晴らしいと思ったはず。地域力は必ず上がっていると思うが、佐倉市は調布市と面積や地域の特性の違いもあるし、まだ地域福祉コーディネーターを設置して間もないので、課題を踏まえて今後充実し、より効果的に取り組んでいったら良いのではないかと感じた。

【会長】

まだ地域福祉コーディネーターの設置後間もないということで、地域が少しずつ見えてくる部分もあると思うが、これから必要なこと。皆さんの意見を参考にさせていただきたいと思う。

地域福祉フォーラムについては以上として、議事（2）包括的な支援体制の整備について、事務局からの説明をお願いします。

（2）包括的な支援体制の整備について

資料2に基づき、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

包括的な支援体制の整備について、庁内の担当者会議を開催し、そこで、総合相談窓口を置く案と、地域福祉コーディネーターを中心に連携体制を強化する案を提示して検討した旨、事務局から説明があった。事務局としては、後者の案の方向で考えたいということだった。資料には、会議の参加者から出た意見も記載されている。意見や感想を伺いたい。

【委員】

総合相談窓口を選択するのは、時期尚早かと思う。

地域福祉コーディネーターを中心になると、位置づけや財源の問題もある。一番の課題は、今、児童、障害、高齢と、いろいろな相談があるが、横の連携が十分とれているのか。そこが一番問題で、それを理解した上で地域福祉コーディネーターの活動に活かすという視点がないと、ばらばらの縦割りになってしまう。

一方、総合相談窓口は、地域づくりにはつながらない。そういった意味で、庁内会議では地域福祉コーディネーターの案が大勢だったのだろうと推測する。

相談の連携自体、課題の把握ももちろんそうだが、日々の活動の中で地域福祉コーディネーターが実施していくことになるのであろうと思う。そこを踏まえた上での地域づくり、サービスを使えない谷間の人を拾いながら、政策提言もしながら、総合相談もするということになる。地域福祉コーディネーターは、量的にも能力的にも厳しいと思う。従って、今一番やるべきことは、児童、障害、高齢等の横の連絡で、情報共有は、すぐにやっていただきたいくらい。

【会長】

地域おこしは総合相談窓口というかたちではできないということ。また、地域福祉コーディネーターが地域に入って活動していくことは大事だが、その前に、5か所の地域包括支援センター、障害、子育て、くらしサポートセンターなど、今ある窓口が、もう少し情報共有する必要があるということ。

【委員】

私は当事者だが、委員の立場としては、総合的な相談体制をとるならば、やはり総合相談窓口の設置よりも、地域福祉コーディネーターのような立場を設置する方向で考える。待つだけではなくアウトリーチもしていく、それ

も直接の相談者や利用者の所だけでなく、地域に出て地域の声を吸い上げる中で問題を発見していくというように、機能という面では、地域福祉コーディネーターの設置という方が、より深く広く地域の問題に関わっていけるのではないかと思っている。

ただ、話のあったように、生活支援コーディネーターとの違いであったり、地域福祉コーディネーターの役割というものについて、ご理解いただくまでには至っていないというところがあるので、その部分は、助けてもらう側の視線に立って、話をしていく必要があるのだろうと思っている。例えば、生活支援コーディネーターと何が違うのか、住み分けはどうなのかと聞かれるが、機能的にはほぼ変わらない。ただ、生活支援コーディネーターは高齢者に特化し、地域福祉コーディネーターはそれだけではない様々な問題に対応できるという部分では、大きな違いがある。そういう役割とか位置づけをしっかりと明確にした上で、役割が違うからこそ連携、連動できるのだというような視点で話をしていくことが必要だと考えている。

個別の相談を受けていると、最近多いのは、多問題世帯。例えば8050のように、80歳の親を独身で無職の息子が見ているなど、高齢者福祉サービスだけでは解決できない、複数の問題を抱えた世帯が非常に多い。そういった問題に対し、地域包括支援センターで深く関わっていくのには限界がある。そのような中で、地域福祉コーディネーターが連動して動くというようなことがしっかり見せられれば、少し理解も進むのではないかと考えている。それぞれの相談機関や体制の役割を明確にした上で、その中での地域福祉コーディネーターの立場をしっかりと伝えていくことで、多くの方に姿が見えていくのではないか。

庁内会議では、各種の相談窓口は充実しているが、それを横串で刺して活用していく存在がないということが如実に示された。そういう人がいれば、より利用者にとって必要な資源が提供されるのではないかというようなことが表れている。そのあたりが、正に地域福祉コーディネーターの設置の狙いの主眼、核になる部分。そうしたことをしっかりと伝えていくことで、必要性が分かっているし、そうしていかなければいけないのではないかと考える。市で体制を整備するにあたっては、やはりこの地域福祉コーディネーターを市と市社協でしっかりタッグを組んで進めていきたいし、そうあるべきだと考える。

【委員】

庁内会議の参加者の意見を見ていると、地域でざっくばらんに聞いても、これに近い意見が出てくるのではないかと感じた。地域福祉コーディネーターの理念などは、理屈の上では分かるが、そのような理論も含めて、役割を整理するなど手順を重ねるべきで、少し早かったかなという気がしないでも

ない。

そういった意味で、地域福祉コーディネーターの取組を始めたモデル地区の現状がどうなっているのか、そちらの方をむしろ知りたい。前回の委員会で、下手をすると絵に描いた餅になると言ったが、そうならないようにするためにも、もう少し深掘りして捉えていくと、存在の必要性が見えてくるのだろうと思う。

【委員】

庁内会議の参加者の所属部署を見て、こうした方たちが定期的集まって情報交換する中で、地域福祉コーディネーターにこういうことを託したいとか、やはり総合相談窓口で受けて振り分けてもらったほうが良いとかと話を進めていくべきだと思った。窓口を作るからそれについて集まって話しましょうとなると、順序がおかしくなる。

福祉を充実させるということで、定期的にこういう方たちで話し合いをして、子育ての分野ではこういうことが課題ですとか、障害者の分野ではこういうことが課題ですとか、もっと連携を深めることが大事なのではないか、そういう情報交換をするところから始めたら良いのではないかと、参加者の意見などを見ていて思った。

【事務局】

委員から、議論を積み重ねるということや、地域福祉コーディネーターは早かったのではないかという意見があった。

今回の地域福祉フォーラムの話になるが、市社協が地域福祉コーディネーターのスタートを切るに当たり、市と市社協で考えた結果、早い段階ではあるが、あえて地域福祉コーディネーターというものをまず市民に知っていただくことを第一に、それに徹したかたちで進めた。そのため、細かい詰めの部分や、庁内での議論が後になったというのは、確かにそのとおりでと思う。

フォーラムの市の発表資料について、動画の中では、時間上の制限から、完全には説明できなかった。発表資料では、地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターの違いを表で示したり、相談の支援体制、地域づくりの方法などについて、考えられる一定のモデルを図に示した。

収録の時点では、まだ地域福祉コーディネーターの設置から数か月であり、発表資料は、あくまでも、考えられるオーソドックスなかたちでの関わり方を示したものとした。例えば、相談者に対しての地域団体と各種専門機関と地域福祉コーディネーターの関わり方のパターンについて、将来的にこういうかたちでやっていければという図を作った。

順序が逆になってしまうかもしれないが、今回、庁内で各分野の相談について一番分かっている職員を集めて、本音や細かい部分を出し合い、そこを

ひとつのスタートラインとして、図で示したような将来的な部分に追いつくように議論をした。

【委員】

相談者側の立場に立ってというのが、一番自分の頭にある。理解してもらうにはどうしたら良いだろうかと考えてみると、漫画や図説、要は、訴え方があると思う。その時に、これが良いというケースのパターンがあると、具体的に分かりやすいのではないかと思う。目に訴えるものであるとか、このケースに近いようだとか、図式なり構成なり、このような連携体制でいくのだというような、ある程度の方向付けも話ができるかもしれない。

ただし、あまり抽象的すぎると、やはり分からなくなる。かといって、個人情報面で支障があると、それも問題になる。ほどほどの丸め方をして、取組の進んでいる調布市のようなところにも相談し、そういうパターンを幾つか作るというのも、理解につながる訴えかけ方かと思う。

やはり、地域福祉コーディネーターとは何か、生活支援コーディネーターとどこが違うのか、市でも市社協でも周知に苦労されている。実際には、単に、高齢者分野に限るかどうかだけではない。地域福祉フォーラムで調布市社協の発表を見て感じたのは、だんだん広がってくるということ。最初悩んで、いろいろな人、グループに相談を持ちかけて、1つずつ解決して行って、達成できた時の達成感が何にも代えがたいと。発表者がそういうところに喜びを感じているのが良く分かるし、それが更に輪を広げていける。相談する方としては、助かったとなる。そういう良い連鎖が広がっていくように思う。

佐倉市は背伸びをせず、初めの一步を踏み出したという話からスタートして、徐々に広がっていくのが大事だと思う。どうしても消極的になって、安全策を考えたりもするが、まずやってみるべきということがある。その結果が返ってくるのを拾い上げ、少しずつ進めていくものだと思う。やはり、安心で住みやすい佐倉市を作るには、ちょっとしたことを手がけていくのが良いことだと思っている。

【委員】

庁内会議の事務局案の1つとして、総合相談窓口を設置する方向とする案が出されたことに、感慨を覚えている。平成18年に地域福祉計画策定作業部会員として参加したが、この総合相談窓口というのは、当初から出ている案。ただ、書き込まれても絵に描いた餅になるだろうと当時から危惧する意見はあった。私は、市には総合相談窓口を設置するという姿勢が必要なのではないかと思っている。

また、生活支援コーディネーターと地域福祉コーディネーターの住み分けという点が出ていた。生活支援コーディネーターは高齢者を中心に相談を受

けるが、その中に、障害者世帯という問題もだんだんと入ってきている。障害者自身が高齢化しつつあり、親の介護、自分の介護といった問題が出てきたときに、生活支援コーディネーターだけでは解決に至らない。そういう時に地域福祉コーディネーターが、地域のボランティア力を掘り起こして何らかの支援につなげることができれば、大きな力になっていくのではないかと思う。そういう意味で、両コーディネーターの住み分けと連携、この部分をはっきりと書いていったほうが良いという気持ちは持っている。

地域福祉コーディネーターは、今立ち上がったばかりで、ここにいろいろなものを期待して背負わせてしまうというのは、やはり重荷だと思う。この地域福祉コーディネーターを長く続けていくためにも、少しずつ育てていくという気持ちが必要ではないかと思う。資料に、庁内会議での意見の1つとして「話を伺って、地域福祉コーディネーターは個人からの個別相談を受ける人ではなく、現場で地域の相談を聞き、それをほかの部署や地域の人にフィードバックして、足りない資源を一緒につくり上げることで地域の福祉力を高める人なのだと思います。」とあったが、私もそのように理解している。何が何でも地域福祉コーディネーターが全ての問題を拾い上げていくというのは、少し無理がある。やはり、総合相談窓口の設置というのは必要なのではないかと思う。全てをそこで解決するというのではなく、然るべきところへつないでいくという総合相談窓口。そのような感覚で取り組んでいただければ良いかと思う。

【委員】

包括的な支援体制を早く実施してほしいという立場で発言する。

今回国が出してきている制度は、全面的には賛成し難いところがあるが、なぜやりたいかという、地域の中で皆が大切にされるような道につながると思うから。もう1つは、住民が自分たちの住んでいる町で、自分たちのことを自分たちで考え、自分たちで取り組んでいくという自治の姿、最も顕著な自治の姿が見られるのではないかと考えているから。

生活困窮者の支援事業のモデル事業が始まる時に、佐倉の千代田地区の取組は全国的にも話題になった。でも、それは点である。恐らく、調布も点である。調布市全体が調布市社協と同じように思っているかという、それはあり得ない。まだまだ点でしかない。しかし、この間に佐倉では地域福祉計画でいろいろな地域の取組を紹介してきているわけだが、それを見ていると、佐倉の地域福祉力というものは相当高いと思う。佐倉の地域福祉力には、大いに期待できるものがある。その地域の福祉力を、どうやって機能的に発揮できるようにするか。それぞれ点で動いているものを、困っている1人のために結びつける役割を担う人が、地域福祉コーディネーターであったり生活支援コーディネーターであったり、名称は何でもよいが、そういうことをす

る人がいるぞというところにつながると良いと思う。

もともと、包括的な支援体制が必要になってきたというのは、かつて行政は、1つの福祉事務所で福祉六法をまるまる全部やっていた。包括的な支援体制だった。ところが、時代の進歩とともに機能分化し、福祉事務所がばらばらになっていく。それが縦割りの構造になっていく。その構造に基づいて、様々な支援体制が民間で作られていくから、そこにも縦割りが出来上がっていく。その結果、たらい回しになってしまうとか、1か所で相談事が済まなくなってしまうというのが、包括的な支援体制が必要になってきた背景なのだろうと思う。

もう一方で、地域を見ると、国策で進んできた核家族化政策みたいなものがある、隣は何をする人ぞというような風潮が生じてきた。相談支援体制、住民を支える体制が縦割りになり、地域は核家族化が進んで、できるだけ干渉しないでほしいというようなことになった。

この2つが地域づくりを必要とする背景になったのだろうし、地域福祉コーディネーターを必要とする背景だと整理をする必要があると思う。その結果、急いでやらないと、人口がどんどん少なくなって人口減少社会に突入していった時に、誰が誰をどうするのかといったことが全く見えない状況になる。労働力がどこに立ち向かっていくか、どこに一番供給されていかなければいけないのかとか、経済活動がどうなっていくのかという先が見えない状況の中で、1人も困る人を作らないという状況をどうやって作るかというのは、行政施策としては大きなテーマ。確かに政策としてはあるのだろうけれども、地区社協とのつながりなどをぜひ深めながら、住民の中で作り上げていってもらえると有難いなと思う。

資料に書かれていることで気になった点は、地域包括支援センター3か所に地域福祉コーディネーターを設置する案となっているが、指定管理の施設について、市としては指定管理の機能に地域福祉コーディネーターの機能を組み込むのか、市としてどうするかというのは必要なところ。佐倉圏域は社協の社会福祉センターだから良いが、南部と志津南部は指定管理の施設なので、市はどうするのかといったところが気になった。

【事務局】

資料の案は、市の公共施設の配置計画との兼合いと、予算的な制限を想定し、最低限どのエリアに地域福祉コーディネーターを設置できたら良いかという観点で書いている。調布市も最初は2か所から始まり、何年もかけて増やしてきたが、財政規模も異なるので、佐倉市も同じようにできるかは分からない。全市に設置するとなった場合、福祉部の拠点だけでは難しいというところもある。

【会長】

佐倉の地域福祉コーディネーターに話を伺ったが、社協の事務所で仕事をするのと違い、地域に出ているいろいろな方と出会ったり、地域の自治会のところへ行ったり、現場を見ることで課題や身につまされるようなことなど、かなり勉強になったとのことだった。時間はかかると思うが、頑張っしてほしいと思う。調布市社協は2名から始めたとのことだが、佐倉もやはり2名くらいで始まっていけば進み具合も違っていたかと思う。1人で大変だろうが、地区の民生委員だったり社協の福祉委員だったり連携しながら取り組んでいってもらいたいと思っている。

【事務局】

総合相談窓口について補足させていただく。

庁内会議では、相談業務が本当に分かる人たちが参加し、総合相談窓口か、あるいは地域福祉コーディネーターを中心とした連携体制かというかたちで議論した結果、どちらかというところ総合相談窓口に否定的な意見が多かった。

理由の1つとしては、総合相談窓口を設けている幾つかの自治体について調べたところ、相談の振り分けに終わってしまっているという実態があった。それを委託ではなく市の職員が行うとした時に、各分野から人をかき集めたとしても、簡単な相談だったら簡単に振れるが、困難な相談はやはり調整を要し、一番の担当課に振るまでに一定の時間を要する。そこで、総合相談窓口を完全に否定するわけではないが、単に総合相談窓口の看板だけを置いて振り分けをするというのは、果たしてどうなのか、という意見があった。

また、佐倉市にはスペースが足りないという問題もある。総合相談窓口のスペースを作り、なおかつ各課の人たちを動員しないと、機能しない。総合相談窓口を設けている自治体は、例えば大きな福祉センターの中に総合相談窓口のスペースがあり、それとは別に各課のスペースを持っているから、総合相談窓口に入ってから各課に振るということができる。

加えて、人の問題がある。各課から総合相談窓口に出すには、それなりのエキスパートでなければ役に立たない。そうすると、各課からエキスパートを集めた中で、なおかつ各課にもエキスパートを残さないと、回らない。

それらのことを考えた結果、総合相談窓口には否定的な意見が多かったということをお伝えする。

【委員】

案として総合相談窓口が提示されたことは感慨深く、できたら実現してほしいとは思いますが、事務局が言われるような現実も実際にはあることなので、何が何でも実現をというわけではない。

【事務局】

ただ、看板がないと不便だという意見もあるのは事実。両方の意見があるということは把握している。

【会長】

今後も検討いただきたい。それでは、議事（3）第4次地域福祉計画・第1期推進委員会のまとめについて、事務局からの説明をお願いします。

（3）第4次地域福祉計画・第1期推進委員会のまとめについて

資料3～5に基づき、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

事務局から説明があった。このあとにフリートークの時間も設けているが、議事（3）について何か意見や質問があれば、お願いしたい。

【委員】

この第4次地域福祉計画は、かなりの福祉のテーマを盛り込んだものとなっているが、第5次計画を策定するにあたっては、外国の方についての項目も入れたほうが良いと思う。私の住む地域では、イスラムの方の居住が増えており、昨年、まちづくり協議会（地域まちづくり事業実施団体）で、イスラムへの理解を深めるための取組をした。これからはやはり、どうしたら外国の方たちが地域の中で暮らしやすくなるのかという視点も必要だと思う。

もう1つは、防災に関する点。福祉の計画なので防災は必要ないとの考え方もあるとは思いますが、避難所運営委員会のようなところでは、福祉の面から支援をしていかなければいけないことが結構ある。福祉の総合計画なので、市の地域防災計画との連携もとれるようなかたちで書き込んでいく視点も必要だと思う。

【会長】

外国の方はかなり増えている。以前はフィリピンの方が多かったが、今はアフガニスタンなどイスラムの方が増えている。そういった視点は大事だと思う。

防災についても話があったが、やはり視覚障害や聴覚障害の方は、災害時に情報を得るのが難しい。日頃から、どのようにそれを伝えていくかということに取り組んでいくのは、大事なことだと思う。

そのほかに意見等はあるか。なければ、フリートークに移る。今回は第1期の最後の委員会ということで、これまでの2年間にこの地域福祉計画推進

委員会に参加して感じたこと、これから要望することなど、どんなことでも結構なので、1人ずつ伺いたい。

3. フリートーク

【委員】

市社協の計画に、先ほど話に出た災害のことが記載されている。市社協の計画と市の防災の取組との連動が、うまく進めば良いと思う。昨日も地震があったが、ハザードマップに基づいた要支援者の対策は取れているのか、気になった。

地域福祉計画については、全体として、国がやっと追いついてきたという気がしている。ずっと以前に作られた総合相談窓口という考えだが、言葉を変えれば、国が今言っているようなことなのだろうと思う。ただ、市町村の財源が、新型コロナウイルスの影響を受けているのではないかというのが気になる。お金がなければ、やはりできない。お金がなくてもできる方策がないかということと、お金ができた時にやれるものと、分けて考える必要がある。

市の職員も多忙とは思いますが、困っている人たちが実はたくさん地域にいたりとか、それがなかなか発掘されないといったようなことについて、パソコン上で手軽に視聴できるようにするなど何らかの工夫をして、職員研修をするといった方策も考えられる。

今回の「包括的な支援体制に係る担当者会議」の中身を見ると、関係する部署の間でも、見方に相当なばらつきがあることから、研修などである程度のベースづくりのようなことをしていく必要があると思う。併せて、視覚障害とか聴覚障害などの障害者について、民間分野も近々合理的配慮が義務化されるという時に、行政機関での合理的配慮が進んでいないなどということになったら、これは格好がつかない。困っている人という中に、どういう人たちがいるのかということをしっかり押さえながら研修を進めていくと、地域の人たちにもより良い情報提供ができるのではないかと思う。佐倉の地域力からすると、地域の人たちが相当把握をしているはず。そこに行政がしっかりと加味できるようにするための研修といったような見方も必要なのではないかと思った。

【委員】

市社協の地域福祉活動計画「ともに歩むふくしプラン4」と市の地域福祉計画の連携ということに関して、ほかの自治体よりも地区社協の活動がかなり活発であるということは見落とせない。市社協と地区社協の連携という面で、地区社協の事業について、ある程度、市社協からもアドバイスや情報提供といったサポートをいただけるようお願いしていきたいと思う。計画は柱

を示しているものであって、実際に活動をする場面は、やはり地区社協レベル、地域のボランティアレベルのところが多くなっていく。多忙とは思いますが、市社協には各地区担当者がいるので、そのあたりのところを少し強化していただけたらと思う。

【委員】

私からは2点。

1つ目は、佐倉の地域福祉力が高いという話が出ていたが、しかし、それが見えない。市民意識調査の結果からもそう感じる。見せ方にはいろいろなやり方がある。文字よりも、ビジュアル化されたかたちで見せていただいた方が分かる。例えば、Q&Aのかたちで、Qに対してアンサーがこれだけ必要不可欠なところ、今はまだここにいるというような段階的な回答でも良いと思う。そのように、何かが進んでいるというのが見えれば、住民は安心する。

2つ目は、インターネットの活用をどうされているのかというのが見えない。サイバー攻撃の恐れもあり、国を挙げていろいろと対策をとっているところなので、下手に使うと火傷をするかもしれない。しかし、今、窓口がないなどといった話をしているというのに、なぜインターネットを活用しないのか。情報収集の媒体になるのではないか。

ただ、高齢者の問題がある。パソコンを見たことがない、触ったことがないという人が大勢いる。そういう人たちをどうフォローするのだが、慣れ親しんでもらうということになると思う。やはり、これを活用すべきだと思う。高齢者は、例えば運転免許も返納するなど、動けなくなってきているので、できれば対面したいがどうすれば良いかというところの解決策としては、1つ考えていかなければいけないと思っている。

【会長】

コロナ禍で、少しずつオンライン会議の機会も増えてきた。研修なども、東京の方まで行けなくてもオンラインでできるのは、良いことだと思う。

【委員】

市の施設には、Wi-Fi環境が整っていないところが多い。何とかWi-Fi環境を整えていただきたい。

【会長】

私も公民館で学習支援をやっているが、高校生がパソコンを持って来ても、Wi-Fi環境がない。そろそろ、少しずつそちらの対応もお願いできればと思う。

【委員】

今後の総合相談窓口の設置については分からないということだったが、庁内会議に参加されたような福祉を担当する部署の方で、定期的に情報交換を行ってほしいというのが1つ。

また、私は40代だが、これから人口が減少し、高齢化が進んでいった時に、私のような世代が支えていくことになると思う。しかし、仕事をしていたり、子育てをしていたり、東京に働きに出ていて日中は佐倉市内にいないなどといった現状がある。

私は高齢者のリハビリのデイサービスで仕事をしているが、元気になりたいとか、維持のために来ているという方がとても多い。介護保険は利用していても、気持ちの面で元気な方はいっぱいいる。その方たちが言われるのが、やはり外出に不安があるということ。買い物に行きたいが転んだらどうしようとか、送迎も実費になってしまうと負担が大きく、なかなか出られないというようなことを言われる方が多い。これを行政サービスで解決しようと思えば、莫大なお金が必要になってしまうと思う。

私は子育て支援委員会の委員をしているが、その応募の書類に、どうしたら子育てと仕事を両立していけるか自由に書いてくださいというところがあった。仕事の後で子供を保育園に迎えに行き、帰ってくると、疲れている時などは食事を作るのが大変。一方で、近所に1人でお住まいの高齢者で、料理をするのは好きだが1人で食べるのが寂しいという方がいる。そこで、その方には料理に協力していただき、私が休みの日には車でその方の買い物の送迎をするといったような連携ができれば良いと考えた。転倒したらどうしようなどといったこともあるが、そのような取組が、まちづくりとか地域力というものになっていくと思う。高齢化とか、課題という捉え方ではなくて、できる力を持ち寄るといようなことが、福祉の原点なのではないかなということを感じた。

この委員会では、スペシャリストの皆さんの意見を聞かせていただき、大変勉強になった。2年間ありがとうございました。

【会長】

高齢化率は大変高くなっているが、元気な高齢者はいっぱいいる。何か人の役に立つことがあれば、それが生きがいになる。自治会などでも、パトロールや餅つきなど、80歳を過ぎても頑張っている人がいる。そのようにしていくのが大事。

【委員】

この地域福祉計画推進委員会の中で、いろいろな方がいろいろな前向きな

意見を言われているわけだが、結果的に、かなり反映されてきた。そういう意味で、私はこの委員会を評価している。できるかできないかは別の問題として、まずここで意見を率直に出し合いながら、いろいろな政策に反映させていく。そういうことが少しできてきているのかなと思う。

地域の支え合いについては、行政の手の届かない、届きにくいところをやるのが地域の支えであり、共助。その中心的な役割を担うのは、市社協なり地区社協だと思う。

地域福祉コーディネーターについては、それは何かと聞かれた時に、すぐに説明する言葉がなかなか思い浮かばない。今、モデル地区でいろいろと活動しているが、その行く先を見たいと思う。要するに、1人の困ったをみんなの困ったにして、皆で支える。その役割の1つが地域福祉コーディネーターなのではないかと思う。市の方も、いろいろな意見はあったにしても、市社協の地域福祉コーディネーターについて関心を寄せていることは事実。これからも、できる限り意見を述べていきたいと思う。

【委員】

佐倉市の地域の福祉力の向上や、地域づくりということについて考えるこの委員会に、委員として参加することで、市社協の立ち位置、存在の意義や価値というものを再認識することができた。先ほど意見のあった、市社協と地区社協の連携という部分を踏まえて、改めて市社協としての襟を正していかなければならないと強く感じた。近く「ともに歩むふくしプラン4」の推進委員会を開催するので、そこでも可能であればこちらの意見も反映したいと思う。

次期の地域福祉計画推進委員会がまた構成されて進んでいく中で、提案とかお願いとか要望とか、3点ある。

1点目は、市の次期計画の中に、地域福祉コーディネーターの設置を軸とした包括的な支援体制の整備をうたっていただきたいということ。これまで、市の方針としてそのように考えていただいていた流れがあるので、それを次期の計画にも反映させていただきたい。市社協の方針としても、地域福祉コーディネーターの設置による地域での相談体制や、地域づくりの強化というものを今後の活動の柱にしており、ここは一体感を持って進めていきたいと思っている。

これまでの地域福祉コーディネーターの活動については、経験や実績を今積み重ねて、事例をまとめている段階。いずれきちんと皆さんに報告していかなくてはならない。表現の仕方という話があったが、利用者が「相談して良かった」と思える経験、そして、成功して良かったという我々の達成感、それらを利用者の目線や市民の目線で訴えかけるようなことを、これから実践していきたい。間もなく設置から1年になるので、積み重ねたものをしっ

かりと表現していきたいと思う。

地域福祉フォーラムでは、調布市社協が事例紹介の中で、地域に「ドラマが起こった」という表現をしていた。佐倉でもそういうドラマをいっぱい作らなくてはいけないし、ドラマをドラマとしてしっかり表現するようなことをしていきたいと思う。

2点目は、市社協では市の地域福祉計画と連動しながら地域福祉活動計画を推進しているところだが、実際は双方の委員会が、相互の計画の進捗や策定過程をよく分かっていなかったり、両計画の位置づけや役割が浸透してなかったりという部分がある。そういった中で、次期の計画の策定に向けて、両計画の推進委員会の合同開催のようなものを考えられないか。例えば、年に3回会議があるなら、その内1回を合同で開催し、両計画の位置づけを理解し合ったり、進捗を確認し合うという場面が必要なのではないか。

これまでも双方の事務局間では連携をとっていたが、具体的な進捗というところでは、双方で双方なりにやってきたというのが現実。だが、市の計画はしっかりとした理念を訴え、そのもとに市社協の計画は実践計画を練っていく、という位置づけにあると思うので、もっと一体感を持っていくべきではないかと考える。両計画に地域福祉コーディネーターのことをしっかり載せたいというところもあるので、次期に向けて、委員会の合同開催を検討材料に入れていただきたい。

3点目は、地域福祉の向上の必要性や、地域づくりということ、いかに市民に伝えていくかという点で、市と市社協でしっかりと連携し、広報周知に取り組んでいかなければならないと思うので、市には一緒に積極的な動きをとっていただけるようお願いしたい。

インターネットの活用だとか、進捗度合をしっかりと見せて市民を安心させるという意見が出たが、重く受け止めている。「こうほう佐倉」の1面にも市社協の記事を載せていただいたが、ほかにも様々なものを駆使して、地域福祉力を向上させることが大事だということと一緒に市民に訴えかけていきたいと思う。

【委員】

地域福祉計画と地域福祉活動計画は、両輪として補うかたちになってきていると思う。その中で今、要望もあったが、コロナ禍もある中、地域力とはやはり相談が原点なのではないかと思う。

地域福祉コーディネーターの役割にあるような、地域において一緒に参加支援するという部分、そこはやはり今後も推進していただいて、各相談機関の内容自体、機能自体は充実しているので、ここは何ができてここにつなげるといったような連携の部分を進めていく。その中で、相談出来ない人を拾っていく。地域福祉コーディネーターもそう、地域包括支援センターもそう

だが、そういったかたちで今後進めていけば、より良くなると思う。

また、社会資源の活用の中で、まだ参画していない部分もない訳ではない。そこをどのように、どこが事務局的な役割をしてコーディネートしていくか、ここが重要になってくると思う。それぞれの主体的な業務はあるにしても、そういった活用できていない部分が更に参画していただけるような取組、計画にしていくと良いと思うので、よろしくお願いします。

【会長】

いろいろな分野の方から、それぞれの立場でいろいろな意見をいただいた。

私も民生委員の立場として参画しているが、毎回、市民意識調査で「民生委員・児童委員の役割や活動内容を知っていますか」と聞いてくれているところ、知っているという回答がなかなか半分に達しない。「お住まいの地域を担当する民生委員の名前を知っていますか」という質問の回答も、このくらいのパーセントにとどまっている。

私は最初、市社協の「ともに歩むふくしプラン」の方の推進委員会委員をやらせてもらっていたのだが、その時からこの点を気にしていて、地区で民児協だよりを発行したりとか、自治会の総会に必ず参加して、そこで資料を渡して説明するようにしたりもしているが、それでもなおかつこの調査結果。今回は、この調査結果を民生委員に配り、少し発破をかけようかと思っている。まずは知っていただくことからしか物事は進んでいかなさと思うので、それは反省点。

また、当初入った頃から比べると、市と市社協の事務局連絡会議も毎月開催されているし、いろいろな意味で連携ができてきていると感じる。「こうほう佐倉」で市社協の記事を見た時は驚いた。これがお互いさまになっていけば良いのかなと思うが、大変感激した。

最後に、事務局から何かあるか。

【事務局】

委員の皆様には、2年間、当委員会にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

当委員会は、新型コロナウイルスの感染拡大などにより、開催を延期するなどしたため、2年間で3回のみ開催となった。そのような中、委員の皆様には、第4次佐倉市地域福祉計画の進捗管理や、包括的な支援体制の整備などについて、ご意見をいただいた。非常に率直かつ的確なご意見だったと思う。特に、利用者目線、市民目線、そういった視点がやはり欠けていた部分があったと思う。そういった点も含め、地域福祉コーディネーターであったり、総合相談窓口に関しても、いただいた意見を基に、これからまた改めて検討していきたい。

第4次地域福祉計画は、今年度で4年計画の内の前半2年が終了する。来年度からは、次期計画策定を見据えた取組、議論をしていく必要がある。既に、次期計画に向けて、委員からは外国人の方のこと、地域防災計画のこと、インターネット、ICT活用、そういったお話もいただいた。

なお、Wi-Fi環境の話が出たが、佐倉市はデジタルトランスフォーメーションの推進に取り組んでいるところなので、恐らくWi-Fi環境も整っていくと思う。

いろいろなテーマや課題があるが、福祉部でもやはり介護給付であったり、障害者や高齢者に対する給付がかなり増えており、なかなかソフト面に予算を回せない事情がある。その中でも、地域の福祉資源を活用して、市社協とも両輪で活動し、いろいろな面に柔軟に対応していきたいと考えている。

今後も、地域福祉の推進において、ご協力をお願いすることも多々あると思うが、引き続きご支援をお願いする。

【会長】

それでは、ここでフリートークを終わりとする。ありがとうございました。

4. 閉 会